

「イジメと家庭のコミュニケーション」

「おかあさんは何があっても味方だよ」

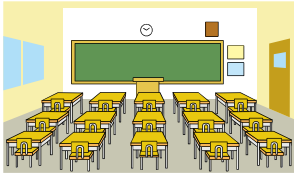
◇◇◇◇◇

「イジメ」というのは、人間関係の大きな問題の一つです。

子供が「イジメ」に直面した時、親はどんな風に思い、考え、子供と接することが大切になってくるのでしょうか。

今回は、「イジメ」という人間関係の問題に焦点をあて、こころのリラクセーション、益子カウンセラー（神奈川県）にお話をお聞きしました。

◇◇◇◇◇



「子供が学校に行きたくない理由はどのようなものがあると思いますか？」

やはりイジメという理由が多いのではないかと思います。

私の子供が、小学4年の時、ちょっとしたイジメを体験しました。女の子だったからでしょうか暴力を振るうようなものではなく、仲間外れとか、陰湿なものを少し。

その中で、一番ショックだったというのが、仲の良い友達三人と「同じバスケットクラブに入ろうね」と約束をしていたのに、バスケットクラブに手を上げたのは娘一人だけでした。それ以外にも色々ありましたが、その頃には、子供からのサインも結構でていました。

その時は、「学校が辛かったら休

んでいいよ、無理して行かなくても、今日はお母さんと遊ぼう。学校にはお腹が痛いということにして連絡するから」ということで休ませました。

そして、3日間位休んでいると、子供の中で何らかの変化が起きたのでしょうか、娘が「私、やっぱり学校に行きたい。だって私、何も悪くないし、選んだクラブだって、私が最終的に選んだのだから頑張る」と言いました。

私は、「そうだね。自分で選んだんだもんね。一年間頑張ってみて、嫌だったら、来年別のクラブに入ればいいよ」と言いました。

次の日から子供は学校に行きました。後から担任の先生に聞いた話

によると、今まで自分が仲が良いと思っていた友達ではなく、他に友達を作って楽しく学校に行くようになりました。

この出来事で娘の心の中で、どのような心の変化が起きていたのかは分からないのですが、私が見る限りでは、やはり娘自身がひとまわり大きくなって学校に戻ったのだと感じています。

こういった時に親は、子供に対してどういう態度をとったらいいのだろうと思われたいと思いますが、その時の私は、「あなたの味方だよ」という姿勢を全面に出しました。

そして、相手をただ責めるのではなくて、どうしてそんなことになったのか、相手はどうしてそういうこ

とをしたのか、相手の立場や気持ち
を子供と話し合いました。

さらに、自分にも悪いところな
かったか二人で考えたんです。

あの時の欠席は、ズル休みと考
えるか、それとも必要なズル休みであ
るのか。

小学生の場合それを判断するの
は親ですが、親の心にもほんの少し
ゆとりがあれば、必要なズル休みを
容認しても良いと思います。

親は、義務教育であっても、行か
なければならぬという考えは捨
てて、もっと柔軟に考えてあげるこ
とが、この現代社会で、親ができる
我が子を守るための防衛法だと思
っています。

―イジメというのは、どういう気持
ちから起こって行くのでしょうか？

ニュースや新聞で警察に捕まっ
た人を見ると、その子供（家族）に
対して、「かわいそう」と一度くら
いは、そんな言葉が頭に浮かんだ方

は大勢いらつしやると思います。

この言葉の裏側には、どのような
意味があるかというところ、「あんな子
育てるもろくにしないで、自分達の快
楽に走って法律まで犯してしまっ
た親の子供」だとか「この子はまど
もな大人になれないんじゃないか
しら」とかそういう思いがあつて、
かわいそうと思うのではないでし
ょうか。

これは、冷静に分析してみると、
「少なくとも、自分達はあの家族よ
りもきちんと子育てをしている。教
育をしている」。要するに、私達は
あの家族よりも上だという思いが
隠されているんです。

実は、こういう風に思うのも、イ
ジメの第一段階なんです。

例えば、10歳位の子供だったら、
マスコミ報道も見ているかもしれ
ないし、世間がかわいそうだと思っ
ていることも、もしかしたら分かっ
ているかもしれません。

そういう時にその子供がどう思

うかというところ、こちら側が同情的に
「かわいそう」と言ったとしても、
やっぱり「見下されているんだ」と
いう感じを受けている可能性があ
ります。

イジメというのは、対等な関係で
の、自分の要求や相手に対しての怒
りを爆発させる喧嘩とは違います。
イジメというのは、上下関係がで
きていて、自分よりも弱いものに対
して、一方的に心理的・身体的な攻
撃を加えるものなんです。

―親はどのようにしていくといい
のでしょうか？

子供は成長段階ですので、正確な
善悪の判断というのはできないと
思います。

まず子供とのコミュニケーション
の時間をとってあげて、イジメは
いけないということを教えていか
なくてはいけないと思います。

私は、イジメというのは、いじめ
る側が悪いと思っています。

いじめる理由というのは、汚いだ
とか、トロイからだとかと言いま

が、これは理由ではないんですね。
いじめた時に、いじめがいがあるか、
ないかということなんです。つまり、
いじめられる側の耐久性によって、
本格的にイジメに発展してしまう
か、そうならないかにわかれていき
ます。この耐久性というのは、やっ
ぱり子供一人では、身に付くもの
ではありません。小集団でコミュニケ
ーションをとる方法というのを親
が教えてあげないと耐久性は身に
つかないと思います。

家族でのコミュニケーションが
できないと、学校やクラスといった
小集団に入った時に、その子供はコ
ミュニケーションを取ることができ
ないんです。だからまずは、家族
でどうやってコミュニケーション
をとるかということが基本になっ
てくると思います。



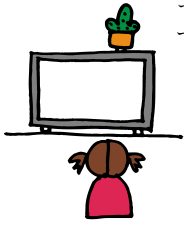
「例えばいじめを親には隠しておきたいと思う子供も多いと思うのですが。」

親には言えないと思っけていても、いじめられている子は誰かに知ってもらいたいと思っけているはずでず。親や兄弟姉妹、仲の良い友達、学校の先生や塾の先生に、サインを出していると思っけています。

それに対して気づけるか気づけないかは、やはり日頃のコミュニケーションが必要でず。

中学、高校くらいになると、親に悟られないように隠すことはできるかもしれませんが、小学生だとサインを出していないつもりでも、必ず親にサインを出していると思っけてます。

「いつもとちよつと様子が違うな」とか、「ちよつと食欲がないな」とか、「何かちよつと塞ぎこんでいるな」とか、テレビを見ている、ボ一つと見ているなどか、そうしたちよつとした変化でず。



「そうした変化に気づいた時、まず親はどういう風に接したらいいのでしょうか？」

いじめが原因かもしれないう思っけても、いきなり「いじめられているの？」とは言っけてはいけません。

まずは、「どうかしたの？」とか、「お腹痛いの？」とか「具合悪いの」とかそういう形から入っけてください。そして、尋問するみたいになうしたの！というように問詰めることはしないでください。

また、親だからとっけて、上からのモノの言い方はしてはいけません。自分の子供であつても、対等に、正面から目をみて話っけてください。

そして、「何も言いたくなければ、何も言わなくていいよ、ただお母さん（お父さん）は絶対にあなたの味方だからね」ということを常に子供に示っけてあげておいてください。

そうすると、その時に話さなくて、あとからきちんとサインを出っけてくれると思っけています。

「その次の段階で、学校に行けるようになるために、どのような親子のコミュニケーションがあるといいのでしょうか？」

まず、必ず学校に戻らなくてはいけないということは、あまり考える必要はないと思っけています。

また自分の子供でも、全然別の人格なので、親が「何でその位で」と思っけていても、その子にとつてみると、死んでしまいたい位小さな心が傷ついている場合だつてあります。

そうしたことを考えずに、「もういい加減に学校に行きなさい」とか「何、さぼつてんの」ということは言っけてはいけません。

もちろん学校に行くに越したことはないませんが、いけない理由とっけて、今、それだけの休息を取る時間が必要だと考えっけてあげてください。

もしも、本当にいけないような状態であれば、フリースクールでも何でもあるので、行く必要はないと思っけています。

「命には代えられませんから・・・。」

この子が楽しく生きていけるために・・・というスタンス、それ位大きなものを親が持つこと、ユトリを持つことが大事でず。そうすると、子供の心にもユトリが生まれてきます。

結局、子供は、「学校に行かなくちゃいけない」という思いがあり、親からは「学校に行け」と言われると、板挟みになつてしまつています。親がユトリのない状態だと、子供は、家にも学校にもいられない、行き場がなくなつてしまつています。

「親がそういう風に考えられるようにするための方法のようなものは？」

極端に表現すると、自分の子供がいじめにあつて自殺したらとっけて、最悪の状態のことを考えっけて見てください。

自殺なんてしてほしくない、生きていっけてほしいと誰でも思っけていますよね。では、学校に行つたら死んでしまつて子供を親として学校に行かせ



心理カウンセラー 益子 えり子（神奈川県横浜市栄区）

こころのリラクゼーション <http://www1.ttny.ne.jp/ma0502/>

（詳細情報）



られますか？

死んでしまうのなら学校なんか行かなくても良い。そう考えて見てください。

勿論、これは、緊急避難的なことですが、それくらい大きな構えを親が持っているだけで、子供の心も少しずつ変化してくると思います。

勿論、その時に「お母さんはいつでもあなたの味方よ」という言葉を投げかけてあげてください。



そして、子供の心の耐久性と親の

心の耐久性は全く違います。「どうして私の子供なのにこんなにこの子は弱虫なの？」なんて思わないで下さい。

イジメられ、傷ついている子供は親のそんな気持ちを察します。子供は、学校でも家庭でも居場所を失ってしまいます。

—親がそのように考えると、子供にどのような影響があるのでしょうか？

まずは、親子間でのコミュニケーションがスムーズにとれてくると思います。そうすると、子供というのは、安心できる場所があるので、そうになると、どこへでも出ていけるようになっていくんですね。

ここに帰ってくれば安心、安全。大人でもそうだと思いますが、この

家があるから、お母さん、お父さんが居てくれるから僕は学校に行けると思えるのです。

ただそういう安全な場所というのは、親だけ頑張っても、子供だけ頑張ってもできません。家族全員で作っていくもの、なんです。

現代社会において、今の親たちが子供の頃の学校とは違います。

「うちの子に限って・・・」という言葉は今も通用しません。明日自分の子供がイジメを受けても不思議のない学校生活を子供たちは送っています。

もう一度、自分の子供を良く観て、そして会話をしてあげてください。それが、我が子をイジメから守る親としての第一歩です。

（注）本文は、益子カウンセラーへのインタビュー内容です。（2009年9月）